

序章 スリランカ民主社会主義共和国の概要

1. スリランカの概要

スリランカは、1948年に英連邦の自治領セイロンとして独立し、その後1972年に完全独立して国名をスリランカ共和国に、1978年に新憲法によりスリランカ民主社会主義共和国に改めた。政体は1院制議会民主主義で、6.3万平方kmの国土（日本の約17%）に19百万人（1999年時点）の人口を有し、首都はスリジャヤワルデネブラ・コッテ（1985年にコロンボから遷都、コロンボ市郊外）で、公用語はスインハラ語である。通常使われている言語は、スインハラ語・タミル語および英語（スインハラ語とタミル語のLinkage Language）の3種類である。スインハラ人（74.0%）・タミル人（18.1%）・ムスリム人（7.1%）・その他（0.8%）の民族で構成され、宗教は仏教（約70%）・ヒンズー教（約15%）・キリスト教（約7.6%）・イスラム教（約7.4%）である。人口は19百万人（'98）、人口増加率1.35%（'98）、都市人口率25.3%（'99）となっている。

スリランカは、南北400km・東西200kmのインド半島南端の島国で、島の中央部には2,000m級の山脈がり、山間部の年間降雨量は3,000mmに達し、国土の約40%が森林である。11月から3月は全土が雨季で、5月から9月のモンスーンでは中央部から南部にかけて多量の降雨がある。低地部の最低気温は24.2°C・最高気温は31.5°C、丘陵部の最低気温は17.0°C・最高気温は25.7°Cである。

スリランカの使用通貨はルピー（Rs.）で2000年8月現在1Rs.=1.41円、1999年のGNP総額は155億米ドル（Rs.Bn.1,090.4）、一人当たりのGNPは813米ドル（Rs.57.257）の経済状態である。

スリランカには、化石燃料資源はほとんど存在せず、国産エネルギーとしては水力による1次電力および薪・砂糖きびかす（バガス）・バイオマス等の非商業エネルギーがあるに過ぎない。

緑の島国で、高度成長の潜在能力を秘めている国ではあるが、目下の最大課題は国内武力紛争であり、1998年8月以後全土に非常事態宣言が出されたままである。

2. 一般統計データ

1999年のGDPはRs.Bn.1,110.7で、分野別構成は 農業=20.7%・製造=16.4%・鉱業/採鉱石=1.8%・建設=7.6%・サービス=53.5%となっている。

1999年度の輸出はRs.Bn.324.4（GDPの29.2%）、輸入はRs.Mn.416.2（GDPの37.5%）で輸入超過となっている。1999年度の失業率は8.9%であった。

識字率は91.8%と高い水準にあり、人口増加率は小さく、1家庭の出生率は2に近い。

GNPとGDPは毎年順調な伸び（GDPで4.3%程度）を続けている。

繊維とそれを原料とする衣料産業分野がスリランカの鉱業生産の第1位を占めている。

(GDP、人口、工業生産)

		1995	1996	1997	1998	1999
GNP 総額	Rs.Bn.	659.1	757.3	889.0	1,001.9	1,090.3
一人当たり	US\$	709	747	804	826	813
GDP	Rs.Bn.	667.8	768.2	890.3	1,018.0	1,110.7
人口	百万人	18.1	18.3	18.6	18.8	19.0
工業生産	RS.Mn					
総額		236.1	276.2	323.1	368.3	397.9
食料、飲料、タバコ		54.9	68.2	75.7	86.9	94.7
繊維、衣料、皮革		104.6	117.5	146.5	165.5	178.8
木材、木材製品		1.9	2.2	2.3	2.5	2.7
紙、紙製品		4.6	5.1	5.5	5.6	5.9
化学、石油化学品		38.3	46.9	50.7	59.7	62.6
非鉄金属品		16.7	19.0	21.4	23.9	26.8
基礎鉄品		1.7	2.2	2.4	2.8	3.0
機械製品		8.0	8.8	11.3	13.2	14.4
その他		5.4	6.3	7.3	8.2	9.0

3. 電力セクターの統計データ

電力需要は年々増加しており、その増加分には火力が供給源として対応している。

(エネルギー)

		1995	1996	1997	1998	1999
原油輸入量	x10 ³ MT	860	2,033	1,814	2,141	1,832
電力						
発電設備容量	MW	1,409	1,453	1,595	1,636	1,691
発電量	GWh	4,783	4,530	5,145	5,683	6,184
水力発電量	GWh	4,514	3,252	3,447	3,914	4,170
火力発電量	GWh	269	1,278	1,698	1,769	2,014
売電量	GWh	3,915	3,740	4,039	4,521	4,808
家庭用	GWh	1,034	1,046	1,213	1,378	1,555
工業・商業	GWh	2,158	2,105	2,119	2,372	2,442

(電力関連総合統計)

	単位	1998 年	1999 年	年間増加率
発電所数	No	32	36	12.5%
発電設備容量	MW	1,636	1,691	3.4%
最大電力需要	MW	1,137	1,281	13.6%
発電量	GWh	5,683	6,184	8.8%
システムロス *1)	%	18.81	20.87	2.1%
CEB の平均販売価格	Rs/kWh	4.46	4.43	-0.7%
電化率	%	52.4	56.6	N.A
システム LF *2)	%	57.1	55.1	-2.0%
Rate of Return *3)	%	4.05	4.96	0.9%
一人当り電力使用量	kWh/人	247	258	4.6%
全エネルギー使用量	KTOE	6,778	NA	-

*1) : 発電所所内消費も含む

*2) : System Load Factor = 発電量 ÷ 最大電力需要 ÷ 8760

*3) : CEB's Rate of Return on CEB's Fixed Assets